

# 任意接種のワクチンを受ける方へ

説明をよく読んで、効果や目的、副反応、健康被害発生時の救済制度など理解の上、接種を受けてください。

2016年10月1日改訂

## 1. 一般的な注意事項

### ●予防接種を受けるときの注意

- ①予防接種の効果や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。
- ②当日は体調をよく観察して、普段と変わったところのないことを確認してください。
- ③予診票は医師への大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。書き漏れのないように。
- ④予診票項目によっては、医師と相談して接種を決めることもあります。
- ⑤予防接種を受ける方がお子さんの場合、「母子手帳」を持参してください。

### ●予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③過去に接種ワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人（他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に医師へその旨を伝え、判断を仰いでください）
- ④その他、医師が接種不相当と判断した人

### ●予防接種を受けたあとの注意

- ①接種後 30分間はよく様子を観察し、アレルギー反応などがあればすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②接種後 2～3 週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④接種当日は接種部位を清潔に保ち、はげしい運動は避けましょう。
- ⑤高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

### ●健康被害時の救済について

「任意接種」により健康被害が発生した場合には「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が受けられる場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ (<http://www.pmda.go.jp>) 等をご覧ください。

### ●ほかのワクチンとの接種間隔について

生ワクチン（水痘・おたふくかぜ・ロタウイルスなど）接種後は他のワクチンまで27日以上あけること。不活化ワクチン（B型肝炎など）接種後は他のワクチン接種まで6日以上あけること。

## 2. ワクチン個別の効果や副反応、注意点について

### ●水痘（みずぼうそう）

水痘ワクチンの免疫獲得率は高く、ワクチン接種を受けた人の90%以上の人が免疫を獲得できるといわれています。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況やその後の周りでの流行の程度によって異なります。副反応としては、ワクチンの接種直後から翌日に発疹、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱などがみられることがあります。全身症状として、接種後1～3週間ごろに発熱、発疹がみられることがあります。通常、数日中に消失します。また、局所症状として発赤、腫脹、硬結などがみられることがあります。非常にまれですが、アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫など）や急性血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

「水痘: 対象1歳以上。接種回数2回。1回目1歳, 2回目: 入園児・流行地は3か月あけて, それ以外は6か月後を推奨。」

(注) 満1歳と2歳の未罹患者は定期接種対象となります。

裏へ

## ●おたふくかぜ

おたふくかぜワクチンは弱毒生ワクチンで、身体の中でワクチンウイルスが増え、抗体ができます。抗体はワクチン接種を受けた90%前後の人にでき、おたふくかぜに対する免疫はワクチン接種後2週間からできます。おたふくかぜの潜伏期間にワクチン接種を受けても、特におたふくかぜの症状が重くなるようなことはありません。

副反応としては、接種後2~3週ごろに、発熱、耳下腺腫れ、嘔吐、せき、鼻汁等の症状があらわれることがあります。これらの症状は通常、数日中に消失します。また、接種後3週間後に、発熱、頭痛、嘔吐等の症状が見られる無菌性髄膜炎が数千人に1人程度の頻度、接種後数日から3週間後に紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血等症状の見られる急性血小板減少性紫斑病が100万人に1人程度の頻度であられることがあります。またまれに難聴、精巣炎があらわれたとの報告があります。接種後(30分間程度)にショック、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等)がまれにあらわれることがあります。

「おたふくかぜ:対象1歳以上。接種回数2回。1回目1歳。2回目は1回目から3年以上あけて~入学前(年長)が推奨。」

## ●B型肝炎

B型肝炎は、一部は劇症肝炎となって死に至ります。軽く済む方、治癒する方もいますが、中にはキャリア化し、将来的に肝硬変や肝臓がんをおこす方もいます。子どもの感染は、ウイルスキャリアの母から、周囲の人(父親や友人等)から、輸血や性行為などでの感染が知られていますが、感染源が不明なことが多いとされています。WHO(世界保健機関)では、B型肝炎ワクチンを定期接種として接種するよう各国に指示しています。日本はまだ任意接種です。

効果。目的はB型肝炎ウイルス感染の予防で、3回接種によって、96%で抗体が作られています。

副反応。発熱や頭痛、倦怠感、局所症状として、疼痛、腫脹、硬結などがみられます。重大な副反応として、アナフィラキシーショック(血圧低下、呼吸困難、顔面蒼白など)、急性散在性脳脊髄炎が非常にまれですが報告されています。

「B型肝炎:年齢制限なし(当院では10歳未満限定)。接種回数3回。初回,4週間後,さらに16週以上あけて。」

(注)平成28年4月以降生まれの満1歳未満は定期接種対象となります。

## ●ロタウイルス(1価:2回接種型,ロタリックス)

ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多く起こるウイルス性の胃腸炎です。突然のおう吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。時に脱水、腎不全、脳炎・脳症などを合併することがあります。

ロタリックスは、ロタウイルスによる胃腸炎を予防する経口生ワクチンです。生後6週から24週までの間に2回接種します。1回目の接種は生後14週6日までに受けることが推奨されています。

効果。重症ロタウイルス胃腸炎を90%以上予防できるとされています。予防効果は少なくとも3年間は持続することが海外の臨床試験で確認されています。

副反応。ぐずり、下痢、咳・鼻みず。その他、発熱、食欲不振、おう吐などです。海外の市販後で、接種後に報告されたおもな副反応は腸重積症、血便排泄です。

腸重積症と思われる症状「強い腹痛(身体を縮めて激しく泣いたり、不機嫌になったりしますが、痛みは出たりおさまったりを繰り返すので、痛みがない間はケロリとしています)、繰り返すおう吐、イチゴジャムのような下痢(血便)、お腹のはりなど。」がみられた場合は、家庭で様子をみて症状を長引かせないよう、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。ほとんどの腸重積の発症例は、初回接種から7日間に報告されています。また、腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管疾患(メッケル憩室など)の方は、接種を受けられません。

ワクチン接種後1週間程度は便中にウイルスが排泄されますが、排泄されたウイルスによって胃腸炎を発症する可能性は低いことが確認されています。念のために、おむつ交換後などワクチン接種を受けたお子様と接した際には手洗いをするなど注意してください。特にご家族の中で免疫系に異常のある方がいる場合には、ワクチン接種を受けたお子様と接したあとの手洗いを徹底するなど注意してください。

「ロタ(ロタリックス):対象生後6週0日~24週0日。27日以上あけて2回接種。1回目は生後14週6日までに。」

★なお、当院では、生後2か月時に、ヒブ・肺炎球菌等との同時接種でロタ1回目を受ける方を原則といたします。

